

行政の最近の動向（2）

政府レベルでの感染症対策の推進と薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン

三重大学医学部附属病院 医療安全・感染管理部
田辺正樹

2016年5月26日、27日に、三重県でG7伊勢志摩サミットが開催されます¹。様々な議題の中の一つとして、感染症対策が挙げられています。

1. 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議

エボラ出血熱や中東呼吸器症候群（MERS）の流行などを受け、国際的に脅威となる感染症について、政府一体となった対策の強化を進めるため、2015年9月、[国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議](#)²が開催され、「[国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針](#)」、また2016年2月、「[国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画](#)」が取りまとめられました。この計画では、重点プロジェクトとして、5つのプロジェクトが挙げられており、「感染症国内対処能力強化プロジェクト」の中に「薬剤耐性（AMR）対策の推進」が挙げられています。

2. 薬剤体制（AMR）対策アクションプラン

2015年5月の世界保健機関（WHO）総会で、薬剤耐性に関する国際行動計画が採択されたことを踏まえ、日本においてもワンヘルス・アプローチ（人の衛生、家畜の衛生、環境の衛生にかかわる関係者が連携共同して対応すること）の視野に立ち対策を検討し、2016年4月、「[薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2016-2020](#)」が策定されました。この薬剤耐性（AMR）の課題も伊勢志摩サミットの議題の一つとされています。

このアクションプランには、「抗微生物剤の適正使用」や「感染予防・管理」といった ICT 活動と密接に関連する内容が盛り込まれています。また、成果指標が設定されており、2020年のヒトの抗微生物剤の使用量を2013年比で33%減少させることや、黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率を2020年に20%以下にするなどの目標も挙げられています。

WHO や日本政府と聞くと、とっつき難い印象を持つ方も多いと思いますが、いずれ我々の ICT レベルにまで影響してくると思われれます。これらの情報はすべて、「[国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議](#)」²のホームページ上で公開されておりますので、是非、一度、眼を通してみてください。

(文献)

1 G7 伊勢志摩サミット 2016 ホームページ.

<http://www.g7ise-shimasummit.go.jp/summit/>

2 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議ホームページ.

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokusai_kansen/

本記事の無断引用・転載を禁じます。